

活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

療養者を中心とした在宅医療・在宅療養の推進にむけて
～多職種連携・協働による取り組み～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

山梨県中北保健所健康支援課

代表者：飯窪 千恵

勤務先：山梨県中北保健所

所 属：健康支援課

所在地：〒400-8543

山梨県甲府市太田町9-1

TEL：055-237-1380

FAX：055-235-7115

E-Mail：miyabara-amnj@pref.yamanashi.lg.jp



◇活動方針

国では超高齢社会・多死時代の対応のために社会保障・税一体改革大綱、「在宅医療・介護あんしん2012」により在宅医療・介護サービスの充実を含めて住み慣れた場で自分らしい生活を送ることができる環境整備をはかっている。また、平成24年に本県でおこなわれた山梨県県民保健医療意識調査の結果からも在宅医療に対するニーズが高いことがわかる。そこで中北保健所では安心してその人らしい療養生活を送るための地域の保健医療等総合的なサービス提供体制整備を目指し、1)医療機関と地域の医療・介護等継続したケアの推進 2)在宅療養支援者のスキルアップ 3)地域住民・支援関係者への普及啓発と地域の協力体制等の環境づくりを柱に在宅療養の医療・在宅療養の推進に取り組む。

◇活動内容

1、在宅療養者支援検討会議の開催と既存ネットワークへの参画等

<内容>

- ・在宅療養者支援検討会議の開催においては管内の各機関や職種を選定して地区の医師会、歯科医師会、薬剤師会等出向き、事業の必要性や目的の説明をし、参画していただいた。検討会議では各機関の代表者がそれぞれの立場で現状や課題を意見交換し、課題の共有や検討等もおこなっている。
- ・既存のネットワーク活動に参画し、各地域の課題を把握した。把握した課題は上記の代表者による検討会議で管内の課題として多職種で共有し検討につなげた。
- ・検討会議、既存のネットワーク代表者による先進地実施研修として富山県の新川地域の在宅療養支援体制に関する視察をおこなった。

活動成果報告書

<成果>

- ・各機関が一堂に会し情報交換や課題を共有して検討を行うことで、それぞれの機関が担うべき役割や連携について改めてそれぞれの立場で考えるきっかけになった。
- ・各機関同士の顔の見える連携の一助になった。
- ・先進地研修では、在宅医療等の支援体制構築について学ぶことができ、管内の在宅医療等支援体制を具体的にイメージ化し、共有していくことの重要性を学んだ。また、移動時間中にも各専門職種同士で話し意見交換をすることでさらに相互の理解が深まった。

2. 想いのマップ検討会議の開催

<内容>

- ・医療機関と地域の医療・介護等継続したケアのために幅広い専門職の連携が必要となるため、地域で在宅療養者の支援をおこなっている多職種の代表者で、在宅で療養する方がその人らしく生活を送るための支援として必要なことについて検討を重ねた。会議の中では療養者の歩みや大切にしてきたこと、今後の生き方などを療養者が支援者に語ることで療養者の想いを整理共有し寄り添うことができるのではないかと考えた。そして、その療養者の想いを中心に支援者が念頭におきながら多職種が連携して支援することで療養する方がその人らしく生活できると考え、その媒体として“想いのマップ”の作成に取り組んだ。

<成果>

- ・多職種が日々の支援の中で学び、大切にしていること等を共有し、想いのマップの目的や内容について「療養者の立場にたって」よりよい支援につなげるきっかけとなるよう検討を重ねた。
 - 1) 療養者の過去、現在、これからの生活について療養者が語りながら記入するマップ(様式)
 - 2) 「自分を語ってもらうこと」の意義や大切さ等の理解につながる支援のポイント
 - 3) 地域で療養者を支援する多職種からそれぞれの機能や役割を紹介し、療養者が活用できる資源の選択肢の幅が広がる多職種連携に活かせる情報
- の内容により構成された冊子が完成した。
- ・平成25年度に作成した想いのマップを活用し、現在は地域で療養者の想いを中心にした支援の重要性の普及啓発を図っている。

3. 支援関係者のスキルアップ(研修)

<内容>

- ・療養者の想いを中心に寄り添う支援の向上をはかることを目的に、想いのマップを活用して研修会を開催している。対象は想いのマップのダイジェスト版を送付した保健・医療・介護等の機関で研修希望のあった支援関係者等で、職種別と多職種合同による研修とし、関係機関等との協働企画により開催している。

<成果>

- ・想いのマップの普及啓発研修会では、研修希望機関・職種と協働企画することで共通する理念と職種の専門性を踏まえた研修内容とするとともに在宅医療等の動向や課題について理解を深める機会になった。
- ・地域包括支援センター職員と介護支援専門員を対象に研修を行うことにより、今後支援関係者がより身近な地域単位で相談や連携ができるような基盤づくりとした。

活動成果報告書

4. 地域住民・支援関係者への普及啓発

〈内容〉

- ・地域住民と支援関係者に向けて終末期を考える機会と、想いのマップ(活用目的)の普及啓発をおこなう講演会をおこなった。当日は 166 名の参加があった。想いのマップについての紹介と写真を用いた講演で在宅での“あたたかい死”やいのちが受け継がれる看取りの紹介をした。
- ・地域住民のリーダー(愛育会や食生活改善推進委員)34 名に既存の会議の場を活用して想いのマップや在宅医療の支援体制について情報提供をおこなった。

〈成果〉

- ・講演会後には在宅療養に関する気持ちの変化があったと 85%の方が答え、終末期について考える機会になった。また、アンケートの中には地域の力の重要性や看取りに対する想いが多くの方より聞かれた。本人の想いを中心に家族に寄り添って看取られるあたたかい死を身近に感じ、自らの想いを他者に伝える重要性も感じていただく機会にもなった。
- ・地域住民のリーダーには、地域の中で人生の最期について考える機会、語り合うことの意義等の理解につながった。

5. 地域保健・地域看護の推進と連動

〈内容〉

- ・平成 25 年度には継続看護窓口担当者会議、県看護協会中北地区支部支援、地域職域保健、福祉介護分野との連携等あらゆる機会をとらえて在宅医療や在宅療養推進と連動させて取り組んだ。
- ・「療養者中心のよりよい看護を提供するために今何が必要か」をテーマに病院、診療所、訪問看護ステーション、市町村の看護管理者を対象とした代表者会議をおこなった。

〈成果〉

- ・看護管理者の代表者会議では、病院と地域での課題を共有し、個人を知るためにそれぞれの背景や患者さんを取り巻く環境の情報収集、多職種での連携をはかるときに窓口を明確化する必要があることなどを再認識する機会になった。

◇今後の計画

- ・少子高齢化の進展に伴い、地域において緩和や終末期ケアの対象はますます増加することが考えられる。そこで、地域でのケアの質を高めるためにも患者と家族の意志決定が重要だと考えられるため、今後も本人の想いに寄り添う“想いのマップ”の普及啓発や多職種間の連携を強化していくことが重要である。
- ・今後は想いのマップの普及啓発の研修とともに研修実施後のアンケート結果や地域での想いのマップの活用状況を把握し、想いのマップの改善や研修方法についての課題を明確化するとともに、在宅療養支援者間での信頼できる関係づくりやネットワークの構築と仕組みづくりを継続しておこなっていく予定である。
- ・想いのマップの内容は<http://www.pref.yamanashi.jp/ch-hokenf/omoinomap.html>に掲載しています。ぜひご覧ください。